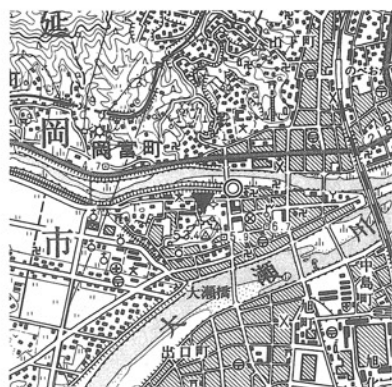


宮崎・延岡城跡
のべおかしよう



(延岡)

延岡城は、延岡市の中心部にある標高約五三mの独立丘陵に築かれている。五ヶ瀬川、大瀬川という大きな川に挟まれた中洲に位置し、その二つの川を外堀とした天然の要害地である。丘陵裾に内堀をめぐらせ、丘陵に石垣を築き、本丸・二ノ丸・三ノ丸の三区からなる本城と、本城の西に築かれた西ノ丸の二郭から構成されている。現在、本城は城山公園と呼ばれ、市の

- 1 所在地 宮崎県延岡市本小路
- 2 調査期間 第二四次調査 二〇〇五年(平17) 六月～十二月
- 3 発掘機関 延岡市教育委員会
- 4 調査担当者 尾方農一
- 5 遺跡の種類 城郭跡
- 6 遺跡の年代 近世～近代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

中心部に緑ある憩いの場を提供している。西ノ丸跡には、延岡藩最後の藩主内藤家より土地の寄贈を受けて内藤記念館が建てられ、現在は歴史資料館として活用されている。

発掘調査は、都市景観形成モデル事業にかかる城山公園整備事業に伴い、一九九二年より始まった。一九九三年には発掘調査の成果に基づき北大手門の整備を行ない、一九九七年には「延岡城跡保存整備基本計画」を策定し、史跡の保存・活用に主眼を置いた公園整備が行なわれている。

今回の調査地は、現存する絵図などから内堀と推定される場所を対象とし、トレンチを三カ所に設定した。調査の結果、東西方向に延びる堀の南壁を検出したが、北壁は検出できず、内堀の全容解明は次年度の調査結果を待つこととなった。

木簡は堀の埋土より二点出土した。(1)はトレンチ一より出土したが、崩土がひどく、調査を断念したため、出土層位は確定できない。(2)はトレンチ三の出土で、出土層は近代の埋土である。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ・「日州延岡 近藤惣兵衛様 大坂 津田休兵衛 書状添」
- ・「日州延岡 近藤惣兵衛様 大坂 津田休兵衛 書状添」

186×55×7 011

(2) ・「宇納間村 けさ谷くみ
米二斗入 沖蔵」

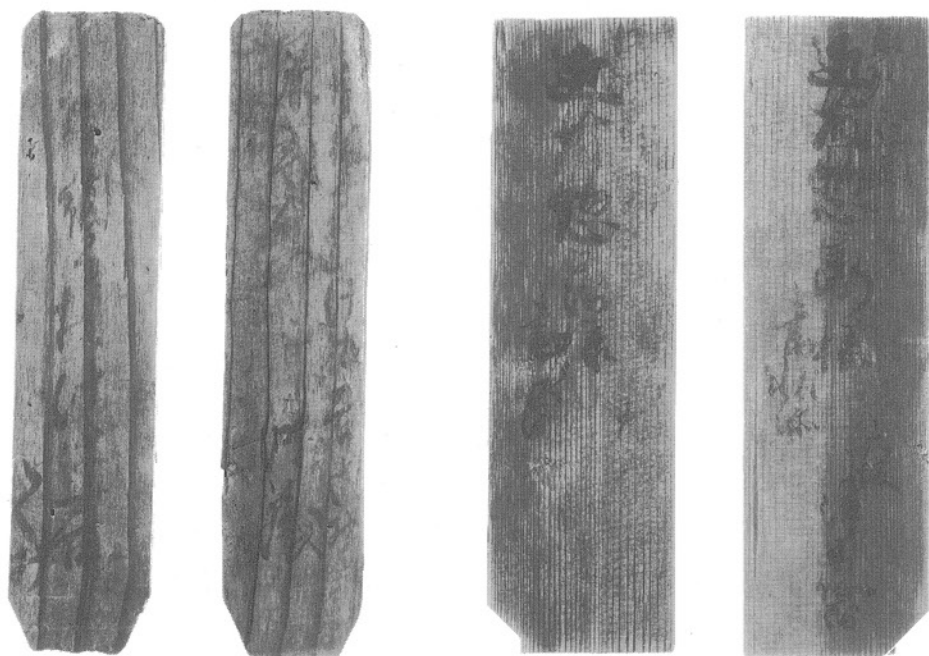
・「宇納間村けさ谷
くみ」

188×40×5 011

(1)はスギの板目材を使用している。延岡藩内藤家の大坂蔵元を務める津田休兵衛から、近藤惣兵衛宛に送られた荷に付けられていたと考えられる荷札木簡である。近藤家は代々、惣兵衛を名乗る有力家臣で、家老を務める家柄であったが、安永四年（一七七五）七月に家老を罷免されている。但し、その後も有力家臣として藩政を支えている。現段階では、この木簡にみえる惣兵衛がいつの頃の惣兵衛かは不明である。加速器質量分析法による放射性炭素年代測定では、一六八〇～一七三〇年、一八一〇～一九五〇年の所見が出ている。

(2)もスギ材を使用している。宇納間村は、江戸時代を通じて延岡藩領で、実高六三三石五斗一升三合七才と、新田高五六石五斗四合の村。「けさ谷」という小字が現在のどこにあたるかは確認できていない。「沖蔵」は、幕末から維新时期にかけての宇納間村『年貢帳』に黒木沖蔵の記載があり、同一人物の可能性が高い。

（尾方農一）



(2)

(1)